

| | |
|-------------------|---|
| | 岡山大学 理学分野 |
| 学部等の教育研究 組織の名称 | 理学部（第1年次:140 第3年次:20） 環境理工学部（第1年次:150） 大学院自然科学研究科（M:395 D:69） 大学院環境生命科学研究科（M:159 D:42） 地球物質科学研究センター |
| 沿 革 | 昭和24（1949）年 新制岡山大学創立 理学部設置 昭和39（1964）年 大学院理学研究科修士課程設置 昭和62（1987）年 大学院自然科学研究科博士後期課程設置 平成6（1994）年 教養部を廃止し、環境理工学部設置 平成11（1999）年 大学院理学研究科を廃止し、大学院自然科学研究科博士前期課程設置 平成17（2005）年 大学院環境学研究科博士前期・後期課程設置 平成24（2012）年 大学院環境生命科学研究科博士前期・後期課程設置 平成17（2005）年 岡山大学放射能泉研究所、温泉研究所、地球内部研究センター、固体地球研究センターを経て、地球物質科学研究センター設置 平成22（2010）年 地球物質科学研究センターが共同利用・共同研究拠点に認定 |
| 設置目的等 | <p>明治33年、大学への予備教育機関の増設を目的に、岡山大学理学部の母体である第六高等学校理科が設立された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時には、第六高等学校の理科が岡山大学理学部として承継された。</p> <p>昭和39年、産業界からの高度の技術者養成の要望を受け大学院理学研究科修士課程が設置された。</p> <p>昭和62年、理学、薬学、工学、農学研究科を基盤とした広い視野から新しい学問体系の組み立てを行うことを目的に、自然科学研究科博士後期課程が設置された。</p> <p>平成6年、自然環境、人間環境及び社会環境に関する研究を学際的な立場から集大成し、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造するための学術研究、教育を行うことを目的に、環境理工学部が設置された。</p> <p>平成11年、専門性の深化と学際性の幅を広げることを目的に、自然科学研究科博士前期課程・後期課程に改組された。</p> |

| | |
|---------------------|---|
| | <p>平成17年、環境分野の教育研究を、持続可能な循環型社会構築と安全・安心の社会実現という理念の下で再構築し、美しく豊穡な国土と風土の形成、健康で安心な生活空間の構築、並びに合理的な物質循環システムの確立を目的として、環境学研究科博士前期課程・後期課程が設置された。</p> <p>平成24年、生産環境の保全・管理と連携した農業生産技術の研究開発を目指すために環境系分野との連携を図ることを目的に、環境生命科学研究所が設置された。</p> <p>平成17年、全国の研究者に対し、センターに設置された研究設備を用いた共同利用研究の機会を提供し、地球・惑星の起源、進化及びダイナミクスに関する先進的かつ実証的な研究を行うことによって、国内外の地球惑星物質科学の発展に努めることを目的に、岡山大学放射能泉研究所、温泉研究所、地球内部研究センター、固体地球研究センターを経て、地球物質科学研究センターが設置された。</p> |
| <p>強みや特色、社会的な役割</p> | <p>岡山大学は、知的探究心に基づき自然界の普遍的真理を追究するとともに、自然科学の基礎学理とその探求方法を教授することに加えて、瀬戸内地域の豊かな自然と近隣の大規模研究施設への至便性のもとで、総合大学としての特徴を生かして分野間の交流と異分野融合研究の創生も図りつつ、人類社会の発展や文化の進展に貢献することを目指し、教育、研究、社会貢献に取り組んできたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幅広い教養と基礎学理を自家薬籠中のものとして、総合性・学際性に基づく広い視野を備えた自然科学の発展に寄与できる高度な専門人材の育成の役割を果たす。また、自然科学全般に対する深い知識に基づいて、先端基礎科学の研究テーマを独自に開拓推進して、その発展に貢献できる高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。 ○ 自律的学習を促進する学生サポートプログラムや学習意欲の高い学生を対象にした早期からのアドバンス講義の履修、国際ワークショップによる学生交流などの少人数教育の特徴を生かして特色のある教育改革を進めてきた。また、学部と大学院及び異分野を融合する研究の促進を図るための特別コースを設けるなど、実質的に6年一貫の学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。 ○ 光合成の機構、超伝導の理論と実験、水の分子論の基礎科学や宇宙・素粒子物理学などの研究実績に基づき、これらを大学として強力に支援することにより世界をリードする卓越した研究を継続的 |

に促進する。また、発展が期待される理学諸分野についても世界トップクラスを目指す研究を、さらに、医学分野との異分野融合研究や地域の環境問題解決につながる研究も併せて推進し、これらを通じて我が国や地域社会の発展に寄与する。共同利用・共同研究拠点として世界をリードしてきた地球・惑星物質科学における研究を推進するとともに、施設の利用などを通じて国内外との共同研究を展開する。

- 岡山県を中心とする近畿・中四国などの周辺地域への高大連携事業としての協力、特にスーパーサイエンスハイスクールに關与する高校教員への支援をはじめ、初等中等学校生向けの講演会実施などにより地域へ貢献してきたこれまでの実績を生かして、理系人材の育成を目指す。また、瀬戸内海域の生物を用いた教育関係共同利用拠点としての施設の充実を図るなど、他大学・研究機関等の教育研究活動に対する支援・協力と学内諸施設を提供することにより、学術の進展や地域の知識社会化の推進に寄与する。さらに、ユネスコが推進する「持続可能な開発のための教育（ESD）」を積極的に進める。
- 大学院への社会人の受け入れを図るとともに、専門講座を開設して教員免許状更新に貢献する。大学の学術研究の成果の発信による社会との連携強化や、地域の企業における研究成果の応用等の積極的展開を通じた産業界の高度化・活性化に資する。
- バカロレア入試の導入などの多様な入試により、理学に必要な資質を有する学生を選抜する。また、エラスムス・スンドゥスプログラムや英語による講義により、学生の国際化に資する。